

令和5年度第2回草加市みんなでまちづくり会議

議 事 録

1 開催日時

令和5年8月30日(水)午後6時～午後8時

2 開催場所

草加市役所 本庁舎7階 7A・7B 会議室

3 出席者

(1) 参加者 まちづくり登録員 12人

若者 12人

(2) 進行 熊谷市市民活動センター センター長

立正大学・地域連携コーディネーター 生越 康治 様

(3) 事務局 みんなでまちづくり課:藤倉課長、山岸課長補佐、田沼主査、水内主事、

小西主事

4 会議の議題

だれもが幸せなまちづくり ～若者とできること～

※ 全4回の第2回目

5 会議の手法

トークフォークダンス。2重の円の形で着席し、「フォークダンス」のように相手をリズムカルに変えながら対話を行う手法。今回は外側に若者、内側にまちづくり登録員が着席し、1分間ごとに相手と話す内容を変えながら行った。

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴者数

0人

9 会議の内容

○挨拶

○事務局説明（みんなでまちづくり会議、トークフォークダンスについて）

○トークフォークダンス

（１）自己紹介

- ①今日なに食べた？
- ②猫派？犬派？
- ③好きなアイスは？
- ④幸せを感じる瞬間は？
- ⑤（人生で２番目くらいに）大変だったことは？
- ⑥今一番楽しみなことは？

（２）草加のこと

- ⑦草加市にあるお勧めの飲食店は？
- ⑧草加市と聞いて最初に浮かぶものは？

【会話内容紹介】

（若者の意見）

- ・５０年前には駅に醤油と肥料の匂いが漂っていたとまちづくり登録員から聞いた。私たちは草加煎餅は浮かんでもそういった匂いは感じなかった。歴史を感じた。

- ⑨草加市にあって他市にないもの（こと）は？

【会話内容紹介】

（まちづくり登録員の意見）

- ・綾瀬川と伝右川という汚い川に挟まれていて住んでいて、そんなに汚い川に挟まれた所はないねという話をした。
- ・ミラトン。素敵なデザイン、素敵なホール、体育館もある音楽室もある。

- ⑩他市にあって草加市にないもの（こと）は？

【会話内容紹介】

（若者の意見）

- ・東武鉄道の準急が獨協大学前駅に止まってほしい。
- ・本格的な野球場やサッカースタジアムが欲しい。
- ・草加市の道は狭く、危ない。

- ⑪草加市役所に伝えたい事

【会話内容紹介】

（若者の意見）

- ・ 子どもの居場所（広い公園、音楽、遊んだりする場所、寄り道できる場所）
- ・ 革産業を広めたいというプロジェクトを後輩が大学内でやっているの、草加市にも知ってほしい。
- ・ 5大戦略の一つが市民との協働を掲げていて、市民とともにまちづくりをしようという気持ちを感じた。

（まちづくり登録員の意見）

- ・ （学生が）伝右川をきれいにする会を作って活動されていると聞いた。素晴らしいなと思った。
- ・ 植林や木を増やしてほしい。まずは残っている木を大切にしたい。草加市は木が少ないわけではないけど多いわけではない。地球温暖化が進んでいるからこそ大切にしたい。

（３）まちづくりについて

⑫みんなでまちづくり会議に参加したきっかけは？

⑬まちづくり(市民活動)を始めたきっかけは？

⑭興味のあるまちづくり(市民活動)は？

【会話内容紹介】

（若者の意見）

- ・ 子どもたちにワークショップの形で、植物を育てるパンを作るとかの体験を行いたい。地方出身であることから実際に自然に触って育った体験を大切だと感じている。
- ・ 三郷の団地に住んでいる。三郷の団地も住民が高齢化している。それでも野菜を分けたりなどの上下両隣のコミュニケーションは良好の所がある。地域のつながりの大切さを感じている。そういった地域のつながりを深める場があればと思う。
- ・ 人が居なくなったところにどうすれば人を戻せるか。例えば、マルシェなどで地場産の製品を販売する催し物を通して草加の魅力を知ってもらおう。移動式の道の駅があったらどうか。
- ・ 子どもたちが昔は伝右川で遊んでいたことを聞いて、伝右川の清掃に携わりたいと思った。

⑮若者と一緒にやりたい事がありますか？

⑯若者と一緒にまちづくりするためのアイデア

【会話内容紹介】

（若者の意見）

- ・若者は SNS の発信に興味がある人が多い、一方、年配の人は長く生きている分、若者には気づかない視点を多く持っている。年配の人が何を発信したいのかを若者が聞いて、SNS の使い方が得意な若者が魅力を若者に伝えるプロジェクトをやったら面白い。
- ・ミラトンを活用できていると思っている。小学生がメインの利用者であるが、中高生や大学生や高齢の方々が集える憩いの場にできたらと思った。多世代の方が集える施設があったら良いなと思った。

(まちづくり登録員の意見)

- ・若者とのづくり（紙飛行機、地球儀、竹細工）したり一緒に遊びたい（遠出、山歩き）。
- ・大学生と市民が出会う場がどんなところにあるかを話し合った。ゼミ、大学、サークル活動を通じてなどの意見があった。具体的には、学園祭に地域の人が出店するなどの話が出た。

※⑯についてのみ、参加者全員が付箋に会話内容を記入（別紙のとおり）。

別紙

⑩若者と一緒にまちづくりするためのアイデア

付箋記載内容

若者の意見	モノをつくる（大学生-年配）、コミュニティ施設-多くの世代のニーズ、獨協文化祭（花火）また復活してほしい、公共交通機関（バス、電車などがつながる）
	給食を無償化に、植林をすべき、農業に触れる活動、花火をもう一度
	・大学生は4年で離れてしまうので後輩に引き継いで、継続的にまちづくりに関わる仕組みが必要である！ ・大学を通さずに、気軽に連絡を取れるように。LINE、メールで連絡できれば「〇〇という活動があるから手伝って！」と声掛けできる→仲が良くなる→アイデア出る
	・子どもたちが体験活動ができるような場所や、広く遊べる公園がほしい。 ・道路が狭く自転車や歩行者が通るのが危ないため、道路をもう少し広くできたら良いのではないか。 ・多世代の人たちが交流できる場があればもっといいのではないか。
	・高齢者の伝えたいことを若者がSNS発信・高齢者との交流の場を設ける→一緒に遊びたい・施設を有効活用の場に “地域とのコミュニティ作りを”
	・移動式の道の駅・若者の参加不足・子どもに身近な図書館・学生と市民の方々との交流・多世代に向けた施設・ワークショップを増やす・大人のためのまちづくりをすることで子どものためのまちづくりにつながるのではないか
	・ミラトンの活用・空き地マルシェ・大学生などとのものづくりを子ども達と行うイベント・大学やゼミ単位で地域とつながる・学園祭などへの出店・ミラトンの近くに高齢者や大学生の使えるスペースを作り、交流できるようにする・交流の場（多世代）
	世代を超えたイベント、それぞれの世代を活かす
	スポーツを高齢者の方と行っていきたい
	休み期間に大学と地域とがつながり、体験活動をする。地域の人とそのイベントだけでなく、その後もかわりを持つイベントをやる
	年配の方と若者に交えたミーティングを行い、年配の方が伝えたいことを若者が代わりにSNSで発信する活動・何かを販売し（伝統産業系）若者と年配の方が一緒に協働・大学単位での関わり
	・人のつながりがなくなるまいまちづくり・高齢者と若者のつながり・施設の有効活用・ゆるくまちづくり
まちづくり登録員の意見	若者と年代の区別なく、交流できるのが良い。高齢者の側は経験や知識にこだわらないのが良い。
	若い世代をゆるく巻き込むコミュニティづくり
	市役所の中に大学生も含めて市民が気軽に集えるカフェのようなものがあると良い（学生から聞いた意見）
	共同でイベント、まつり、ラインで繋がる、子ども、子育て支援、教育、世代を超えた交流
	学生参加きっかけ・市役所インターン・ゼミの先生-大滝ゼミ 学生の脅威・公民館の活性化、ミラトンは小学生が多いが中高生も来たら大学の空いている時間にくことが可能→マッチング出来たら
	自己紹介、草加について、まちづくり
	若い人たちの意見が色々しることが出来、非常に参考になった。今後の活動について若い人たちの意見も参考にしたい
	参加された学生と連携がしたい！
	花火大会、獨協大学の文化祭の花火大会がみんな楽しみだった。
	老若男女が集まれる場を作る。→空家利用、食堂、コミュニケーション、公園・遊歩道を利用したウォーキング・イベント、中高年との触れ合いで想定外の体験・知識を得る。
	ミラトンのフリースペースをもっと広く-大学生も寄れる外の空き地を公園。川の見えるお店わくわく、草加市職員さんへ（公共交通機関の充実、車を使わない町に）、地域全体の活性、広い公園がほしい。